

新約聖書 (ピレモンへの手紙) を読む

蔵谷 哲也

An Exposition of the Epistle of Paul to Philemon

Tetsuya KURATANI

本稿は2017年1月20日、四国大学古川キャンパスにおけるSUDAchi講座で語った内容に修正・加筆したものです。¹

スライド 1

新約聖書 (ピレモンへの手紙) を読む

2017年1月20日

話の概略
1. 内容
2. たとえ
3. 日々の生活に適用

ここで使われる主な聖書は口語訳新約聖書(1954年版)

まず、全体を朗読しましょう。目と耳と口を使う音読によって内容をよりよく理解することが期待できるからです。

スライド 2

ピレモンへの手紙

第1章

1:1キリスト・イエスの囚人パウロと兄弟テモテから、わたしたちの愛する同労者ピレモン、1:2姉妹アピヤ、わたしたちの戦友アルキボ、ならびに、あなたの家にある教会へ。

1:3わたしたちの父なる神と主イエス・キリストから、恵みと平安とが、あなたがたにあるように。

1:4わたしは、祈の時にあなたをおぼえて、いつもわたしの神に感謝している。

1:5それは、主イエスに対し、また、すべての聖徒に対するあなたの愛と信仰とについて、聞いているからである。

1:6どうか、あなたの信仰の交わりが強められて、わたしたちの間でキリストのためになされているすべての良いことが、知られて来るようになってほしい。

1:7兄弟よ、わたしは、あなたの愛によって多くの喜びと慰めとを与えられた。聖徒たちの心が、あなたによってカづけられたからである。

スライド 3

1:8こういうわけで、わたしは、キリストにあってあなたのなすべき事を、きわめて率直に指示してもよいと思うが、

1:9むしろ、愛のゆえにお願いする。すでに老年になり、今またキリスト・イエスの囚人となっているこのパウロが、

1:10捕われの身で産んだわたしの子供オネシモについて、あなたにお願いする。1:11彼は以前は、あなたにとって無益な者であったが、今は、あなたにも、わたしにも、有益な者になった。

1:12彼をあなたのもとに送りかえず。彼はわたしの心である。

1:13わたしは彼を身近に引きとめておいて、わたしが福音のために捕われている間、あなたに代って仕えてもらいたかったのである。

1:14しかし、わたしは、あなたの承諾なしには何もしたくない。あなたが強制されて良い行いをするのではなく、自発的にすることを願っている。

1:15彼がしばらくの間あなたから離れていたのは、あなたが彼をいつまでも留めておくためであったかも知れない。

スライド 4

1:16しかも、もはや奴隷としてではなく、奴隷以上のもの、愛する兄弟としてである。とりわけ、わたしにとってそうであるが、ましてあなたにとっては、肉においても、主にあって、それ以上であらう。

1:17そこで、もしわたしをあなたの信仰の友とってくれるなら、わたし同様に彼を受け入れてほしい。

1:18もし、彼があなたに何か不都合なことをしたか、あるいは、何か負債があれば、それをわたしの借りにしておいてほしい。

1:19このパウロが手ずからしらす、わたしがそれを返済する。この際、あなたが、あなた自身をわたしに負っていることについては、何も言うまい。

1:20兄弟よ、わたしはあなたから、主にあって何か益を得たいものである。わたしの心を、主にあってカづけてもらいたい。

1:21わたしはあなたの従順を堅く信じて、この手紙を書く。あなたは、確かにわたしが言う以上のことをしてくれるだろう。

スライド5

1:22ついでにお願いするが、わたしのために宿を用意しておいてほしい。あなたがたの祈りによって、あなたがたの所に行かせてもらえるように望んでいるのだから。

1:23キリスト・イエスにあって、わたしと共に捕われの身になっているエパfrasから、あなたによろしく。1:24わたしの同労者たち、マルコ、アリストアルコ、デマス、ルカからも、よろしく。

1:25主イエス・キリストの恵みが、あなたがたの霊と共にあるように。

この手紙を読んで、読み取れるその目的は何でしょうか。少なくとも3つの目的があるようです。主要な第一の目的は、とりなしをすることです。とりなしとは、対立する二者の間に入って、うまく折り合いをつけること。仲裁。また、仲介という意味です。キリスト者はイエス・キリストに似た者とされていくことが、地上における生活の一部になっています。イエス・キリストは現在、天の父なる神の右の御座におられ、とりなしの祈りをされています(ローマ人への手紙8章26節, 34節)。地上におけるキリスト者もこの神の御子キリストのように、とりなしの祈りをすることが必要です。第二の目的は、この手紙は、被害を受けた人に対して、その被害を水に流して欲しいと頼むような調子のいいものではなく、被害の弁償を代わりにすると述べていることです。第三の目的は、注意深く読むと、いくつかのとりなしの祈りを依頼していることが読み取れます。

スライド6

この手紙の目的

- ・逃亡した奴隷を赦して、キリスト者の兄弟として受け入れるように、ピレモンにとりなすこと。
 - ・ローマの法律では、窃盗は死刑に値した。
- ・盗まれた金をパウロ自身が払うことさえ申し出ている。
- ・いくつかのとりなしの祈りを間接的にお願いしているようでもある。

出所: Halley, Henry H. HALLEY'S BIBLE HANDBOOK. Michigan: Zondervan. 2007. pp.777-8.

ハーレイの評価はスライド7の通りです。「私(パウロ)を受け入れるようにオネシモを受け入れて欲しい」というくだりは感動的です。ピレモンとパウロは主にある兄弟同士であるからこそ、パウロはこのような依頼ができるはずです。

スライド7

この手紙に対するハーレイの評価

- ・ 礼儀、機知、感情の細やかさおよび寛容の点など完全な宝石とも言わべきもので、「私を迎えるように」オネシモを受け入れるよう、ピレモンに訴える優しさにおいて最高潮に達している。

出所: Halley, Henry H. HALLEY'S BIBLE HANDBOOK, Michigan: Zondervan. 2007. pp.778.

それでは、この書簡の特徴について触れてみます。まず、この書簡は大原理について論じていません。大原理という観点から、語るとすれば、キリスト教の大原理の一つは赦しです。大原理の観点から手紙の内容を展開するなら、神が人の罪を赦すように、罪を悔い改めた兄弟の罪もあなたも赦すべきですという主張を手紙で展開するかもしれませんが、そのような大原理を手法的にこの手紙は用いていません。

スライド8

ピレモンへの手紙の特徴

- ・ 大原理を論じていない
- ・ キリスト教徒のモラルについて詳細な説明をしていない
- ・ 教会において、規律を守らせるとか、常軌を逸した傾向を是正することを目指していない
 - ・ 次の三書はパウロが教会のあり方について指示しているので「教会書簡」と呼ばれる。
 - ・ 第一テモテへの手紙 第二テモテへの手紙
- ・ 第IIヨハネの手紙や第IIIヨハネの手紙と同様な個人的な手紙
 - ・ 教会書簡であれば、受け取ったら、集会で読み上げられるのだが、この手紙は公共の利益の問題を扱っていない。
 - ・ パウロはおそらく大量の個人的手紙を書いておられるが、なぜ、この個人的手紙が聖書の正典となったのか。
- ・ 個人的な事柄に関する個人的な手紙であるが、膨大な重要性を持つ
 - ・ 人類の歴史と同じくらい古い奴隷制度について触れている。
- ・ パウロ書簡では最も短い
 - ・ 短い書では、寓意に宿まるからしめない
 - ・ この書簡における心配りの流れはほろりとさせられるし、啓蒙的である。
 - ・ 聖書の原理の重要点に触れる目的で書かれていない。
- ・ 第IIヨハネの手紙と第IIIヨハネの手紙を除いて、他の書よりも、個人的な書であるが、宣教や教会についても触れている。
- ・ ピレモンが絶対的な法的権限を持つ私的な事柄に関する手紙である

スライド9で、旧約聖書における奴隷の扱いと新約聖書における奴隷の扱いについて、少し考察して

スライド13

オネシモはパウロの書簡を運んだ		
獄中書簡		
	送付者は	著者: 囚人・パウロ
エペソ人への手紙	テキコ(Tychicus)とオネシモ(Onesimus): 6章21節; コロサイ人への手紙4章7-9節	3章1節、4章1節、6章20節
コロサイ人への手紙	テキコ(Tychicus)とオネシモ(Onesimus): コロサイ人への手紙4章7-9節	4章18節
ピリピン人への手紙	エパフロデ(Ephaphroditus)2章25節	1章13節
ピレモンへの手紙	テキコ(Tychicus)とオネシモ(Onesimus): 10-12節; コロサイ人への手紙4章7-9節	1章10節

スライド14は誰に宛てられた手紙であるかです。複数の名称が挙げられています。

スライド14

1:1-2 手紙の宛名

1:1キリスト・イエスの囚人パウロと兄弟テモテから、わたしたちの愛する同労者ピレモン、1:2姉妹アビヤ、わたしたちの戦友アルキボ、ならびに、あなたの家にある教会へ。

宛名: ピレモン、アビヤ、アルキボ あなたの家にある教会

推定であり、強力な根拠はないが、ピレモンは夫(おそらく家の教会の牧師)、アビヤはその妻、アルキボは彼らの息子ではないか? アルキボはわたしたちの戦友とパウロから呼ばれている。つまり、主の軍隊(宣教の働きをする人たちの集会)における戦友としてほめられたという。

とはいえ、この手紙は主にピレモンに宛てられたもの。

オネシモの将来は、ピレモンにより左右され、オネシモの将来は、この家族とその家の教会に影響を与えるために、宛名として参照されていると考えられる。

あなたの家にある教会とは、個人的住居において、礼拝のために集まることを習慣とする教会のこと。

スライド15ではイエス・キリストの使徒であるパウロが、自分を囚人と称することに関する考察です。

スライド15

1:1-2 パウロの肩書: 囚人

1:1キリスト・イエスの囚人パウロと兄弟テモテから、わたしたちの愛する同労者ピレモン、1:2姉妹アビヤ、わたしたちの戦友アルキボ、ならびに、あなたの家にある教会へ。

パウロは自分自身を、使徒、しもべと称するよりも、囚人と呼んでいる。なぜ、囚人と呼ぶのか?

①謙遜を示し、8.9.14節で明示されるものを予期させるためである。パウロはピレモンに命令することができないし、その気もない。パウロは自発的な従順とある程度の憐みに依存しているのである。ある特別な種類のプレッシャーをかけている。牢獄の中で、鎖に繋がれた手で書かれた手紙をピレモンが却下することができるであろうか?

②囚人の状況と法的立場は奴隷の状況と法的立場に近いものである。戦争の捕虜は市場で売られ、奴隷となった。自分自身を囚人と呼ぶことによって、奴隷であるオネシモと完全な連帯を持つ道を開いている。オネシモはパウロ自身の心であり、オネシモを受け入れることは、パウロ自身を受け入れることに等しいと宣言している(12節)。

③囚われの身であるパウロの忍耐は、オネシモが逆境においていかに生き延びるかに関する一つの例になっているかもしれない。

スライド16では、キリスト・イエスの囚人という肩書の意味合いを考察します。

スライド16

1:1-2 パウロの肩書: イエス・キリストの囚人

1:1キリスト・イエスの囚人パウロと兄弟テモテから、わたしたちの愛する同労者ピレモン、1:2姉妹アビヤ、わたしたちの戦友アルキボ、ならびに、あなたの家にある教会へ。

単なる囚人ではなく、イエス・キリストの囚人。ユダヤ人の王のとりこである。ユダヤ人の王とは、旧約聖書では油注がれた者(メシア; 救世主)のこと

パウロは自分自身のことを以下のように呼称する。
「主の囚人(エペソ人への手紙4:1)」「福音のために囚われている(ピレモンへの手紙13節)」
「聖霊に縛られて(使徒の働き20章22節)」

すなわち、イエス・キリストと福音がパウロを囚われ人とする権限である。

パウロの捕囚の身とは2つの性質を持つ

- 1 この世において囚われの身
- 2 この世のものではない王国に根差した囚われの身

スライド17では、なぜキリスト・イエスの囚人なのかを説明するものです。

スライド17

1:1-2 なぜパウロがイエス・キリストの囚人なのかを聖書で見ると

なぜ、イエス・キリストの囚人なのかを聖書の文脈で見ると

①パウロがエルサレムに行き、そこでキリスト・イエスを宣べ伝えたために、ローマの千人隊長によって保護され、置かれた。

②そして嵐によって遭難しそうになった船に乗り、そして、ローマにて、皇帝ネロの前に出るのを待っています。彼がまだエルサレムにいる時に、主が、「あなたは、エルサレムでわたしのことをあかししたように、ローマでもあかししなければならぬ。」(使徒23:11)と言われた。

パウロは、法廷にて被告人としてカエザルの前に立つのだが、それは、イエス・キリストを証しするために立つ。だから、パウロは、自分はローマの囚人ではなく、キリスト・イエスの囚人である。

この手紙はパウロ書簡と呼ばれていますが、差出人はパウロとテモテとなっています。なぜなのかそのことを考察します。

スライド18

1:1-2 手紙の差出人

1:1キリスト・イエスの囚人パウロと兄弟テモテから、わたしたちの愛する同労者ピレモン、1:2姉妹アピヤ、わたしたちの戦友アルキボ、ならびに、あなたの家にある教会へ。

兄弟テモテは共同差出人であるか？

第1、第2テサロニケ人への手紙、第2コリント人への手紙、ピリピ人への手紙、コロサイ人への手紙、ピレモンへの手紙の共同差出人として言及されている。

ピレモンへの手紙では、4節から始まって、私（一人称）で手紙が書かれている。ただし6節は除く。

すなわち、共同差出人として言及された後で、テモテのことは忘れられたように見える。しかしながら、パウロはピレモンに対して何を書くかという実質について、テモテと、ある程度詳細に論じたという可能性がある。もしそうなら、ピレモンへの手紙は、兄弟達に宛てられ（2、7、20節）、兄弟間の合意から生まれたものであり、兄弟愛を要求している。

スライド19では、単なる想像ですが、テモテが手紙の差出人の一人になっている別の理由を考えました。

スライド19

1:1 手紙の差出人

1:1キリスト・イエスの囚人パウロと兄弟テモテから、わたしたちの愛する同労者ピレモン、

パウロ書簡と言われているが、テモテの名前がなぜ差出人のように列記されているのか？

パウロを著者とし、もしかしたらテモテが口述筆記の筆記者を担当したかもしれない。

スライド20では、参考として、いわゆるパウロ書簡の差出人が誰になっているかを示しています。

スライド20

参考：パウロ書簡の差出人とは？

- ・ローマ人への手紙1:1「パウロから」
- ・第1コリント人への手紙1:1「パウロと兄弟ソステネから」
- ・第2コリント人への手紙1:1「パウロおよび兄弟テモテから」
- ・ガラテヤ人への手紙1:1「パウロ……およびすべての兄弟たちから」
- ・エペソ人への手紙1:1「パウロから」
- ・ピリピ人への手紙1:1「パウロとテモテから」
- ・第1テサロニケ人への手紙1:1「パウロ、シルワノ、テモテから」
- ・第2テサロニケ人への手紙1:1「パウロ、シルワノ、テモテから」
- ・第1テモテへの手紙1:1「パウロから」
- ・第2テモテへの手紙1:1「パウロから」
- ・テトスへの手紙1:1「パウロから」
- ・ピレモンへの手紙1:1「パウロと兄弟テモテから」
- ・コロサイ人への手紙1:1「パウロと兄弟テモテから」

スライド21では、手紙の受取人であるピレモンと手紙の差出人パウロの関係についてみています。

スライド21

1:1-2 同労者ピレモン

1:1キリスト・イエスの囚人パウロと兄弟テモテから、わたしたちの愛する同労者ピレモン、1:2姉妹アピヤ、わたしたちの戦友アルキボ、ならびに、あなたの家にある教会へ。

同労者（ピレモン）と使徒（パウロ）の機能上の違いとは
使徒パウロは同労者ピレモンに対して命令する権威をもつ。

その背景：

- ①使徒パウロは命令を下す権威を持つ（8節）
- ②ピレモンはパウロの霊的な子供（ピレモンはパウロを通して救いに導かれた（19節）
- ③完全な従順が確固として期待されている（21節）

スライド22では、「姉妹」という敬称の説明をしています。ついであるが、聖書は、異性に対してどのようにふるまえばよいか、単純明快に告げています。「年をとった婦人たちには母親に対するように、若い女たちには真に混じりけのない心で姉妹に対するように勧めなさい（第一テモテへの手紙5章2節）」。

スライド22

1:1-2 姉妹アピヤ

1:1キリスト・イエスの囚人パウロと兄弟テモテから、わたしたちの愛する同労者ピレモン、1:2姉妹アピヤ、わたしたちの戦友アルキボ、ならびに、あなたの家にある教会へ。

姉妹という呼称は、兄弟という呼称（1、13、16、20節）と同様な愛と尊敬を表現し、そして、同じ機能を持つ呼称である。

スライド23では、手紙の宛名に出てくるアルキボについての説明をしています。コロサイ人への手紙にその情報があります。

スライド23

1:1-2 戦友アルキポ

1:1キリスト・イエスの四人パウロと兄弟テモテから、わたしたちの愛する同労者ピレモン、1:2姉妹アピヤ、わたしたちの戦友アルキポ、ならびに、あなたの家にある教会へ。

アルキポに関する情報は、コロサイ人への手紙4章17節で得られる。

4:17 アルキポに、「主にあつて受けた務をよく果すように」と伝えてほしい。

次のことが明白である

- ①教会において牧師の職務を担った
- ②牧師の職務をまだ完全に遂行していない
- ③「～伝えてほしい」との文言からすると、コロサイ人への手紙が書かれた時、またはその手紙が皆の前で読まれた時、コロサイ人にはいなかったかもしれない。

強力な裏付けがないこと:
アルキポはピレモンとアピヤの間に生まれた息子である。
父と母と共にコロサイで殉教したという伝説がある。

スライド24では、ピレモンの住所がどこであるかをコロサイ人への手紙4章9節から知ることができていることを示しています。³

スライド24

1:1-2 ピレモンの住所は？

1:1キリスト・イエスの四人パウロと兄弟テモテから、わたしたちの愛する同労者ピレモン、1:2姉妹アピヤ、わたしたちの戦友アルキポ、ならびに、あなたの家にある教会へ。

コロサイ人への手紙4章9節から、ピレモンはコロサイの住民と読める。

コロサイ人への手紙4章9節:
4:9あなたがたのひとり、忠実な愛する兄弟オネシモをも、彼と共に送る。彼らはあなたがたに、こちらのいっさいの事情を知らせるであろう。

あなたがた(コロサイ人)のひとりとはオネシモ。オネシモはピレモンのしもべ従って、ピレモンはコロサイの住人と考えられる。

スライド25では、「わたしたちの父なる神」という言葉から、手紙を受け取る人々はキリスト者であることが分かること、その他のことを示しています。

スライド25

1:3 祝福の言葉

1:3わたしたちの父なる神と主イエス・キリストから、恵みと平安とが、あなたがたにあるように。

多くのパウロ書簡と、第Iペテロの手紙(1章2節)、第IIペテロの手紙(1章2節)、ヨハネの黙示録(1章4節)に見られる冒頭の祝福

通常の手紙だと、「ご機嫌いかがですか。お元気なことと思います。私は元気です」といった健康に対する幸運の言葉を述べてであろう。しかし、上記の祝福の言葉によって、この手紙の受取人であるピレモンとその家族は、彼らが、神を父とするから、神の子供であり、イエス・キリストが主であるから、彼らは主人であるイエス・キリストの僕であることを再認識したはず。

現在において、クリスチャンだけが、イエス・キリストの父を、「わたしたちの父」と呼び、イエス・キリストを主と呼ぶ(第Iコリント人への手紙8章5-6節)

スライド26では1章3節における祝福の言葉である恵みと平安について触れています。

スライド26

1:3 祝福の言葉: 恵み、平安

1:3わたしたちの父なる神と主イエス・キリストから、恵みと平安とが、あなたがたにあるように。

恵みは神からの賜物。ギリシャ語でカリスといい、「喜ぶ」ということをほのめかす言葉です。
①恵みとは神様ご自身の性質であり特徴(神は恵み深い、なぜなら神は、罪を赦すから)
②無償の贈り物
③共同体の創造し、感謝が生まれることによって、命、勇気、喜びがもたらされる
④恵みを受け取る価値がないということは、恵みを受ける妨げにならない。そして、罪は恵みによって、克服される。

平安とは神からのもう一つの賜物。ギリシャ語ではエイレネーといい、ユダヤ人の挨拶であるシャロームをほのめかしている。ヘブル語のシャロームの本来の意味は、単に、争いのない、平和な状態を表わすだけでなく、力と生命に溢れた動的な状態をさす。シャロームが意味するものは、次のスライドにあげるようにきわめて豊か。
単に、「平和を願う」とか「平和がありますように」という日常の挨拶ではなく、イエス・キリストを言及することによって、挨拶がより包括的になり、より高い水準に高められている。

この手紙の冒頭で、平和に触れることは、ピレモンと、その奴隷であるオネシモの間での新しい関係を予期している。

スライド27では、平和や平安に関する言葉、ユダヤ人の挨拶「シャローム」の意味を説明しています。

スライド27

参考: シャロームの本来の意味

- (1) 平和 (対国、対神、対人)・・・和平、和解
- (2) 平安 (個人的)・・・平穩、無事、安心、安全
- (3) 繁栄 (商業的)
- (4) 健康 (肉体的、精神的)・・・健全、成熟
- (5) 充足 (生命的)・・・満足、生きる意欲
- (6) 知恵 (学問的)・・・悟り、靈的開眼
- (7) 救い (宗教的)・・・暗闇から愛の支配へ
- (8) 勝利 (究極的)・・・罪と世に対する勝利

スライド28では「わたしの神」と「わたしたちの父なる神」という名称の違いを説明しています。

スライド28

1:4 わたしの神

1:4わたしは、祈の時にあなたをおぼえて、いつもわたしの神に感謝している。

パウロは「わたしたちの父なる神」という公式を繰り返さず、「わたしの神」と語っている。

旧約聖書の詩篇の型に従う用語選択をパウロはしている。

詩篇の作者が神に直接話しかける時、彼らはしばしば、「私の神」という(詩篇3篇7節、5篇2節、7篇1、3節、59篇1節、145篇1節、その他)
マタイの福音書27章46節の段落によると、イエスは十字架の上で、詩篇22篇1節を引用されて、
27:46そして三時ごろに、イエスは大声で叫んで、「エリ、エリ、レマ、サバクタニ」と言われた。それは「わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか」という意味である。

パウロは、読者がパウロの神との個人的会話を聞き入るように許していることが分かる。

スライド29ではとりなしの祈りとは何かを説明しています。

スライド29

1:4 祈りの時にあなたをおぼえて

1:4わたしは、祈の時にあなたをおぼえて、いつもわたしの神に感謝している。

パウロは祈りの中で、ピレモンに対する神の特別な守りと配慮が与えられるように、神にピレモンを推薦している。(これは執り成しの祈りという)

この祈りは次のようなことを示唆している。

奴隷の所有者であるピレモンの内省(ないせい)、意思決定、行動、怠慢(たいまん)は、保護者であり、物事を実現可能とする方であり、裁き主である神によって、見張られているということ。

執り成しの祈りとは、権力の座にある人たちに対する励ましや警告の、最も強力な非暴力的な手段である。全てのクリスチャンは、王とすべての高い地位にある人たちのために、祈り、とりなしをする義務があるので、パウロも、ピレモンのために、神の御前でとりなしの祈りをし、この祈りの実質をピレモンにも知らしめている。

第一テモテへの手紙 2:1そこで、まず第一に勧める。すべての人のために、王たちと上立っているすべての人々のために、願いと、祈と、とりなしと、感謝とをさげなさい。

スライド30では、ピレモンに関する情報がどこから来たものかについて考察しています。

スライド30

1:5 聞いている

1:5それは、主イエスに対し、また、すべての聖徒に対するあなたの愛と信仰について、聞いているからである。

パウロが受け取った口頭上の情報の源はどこであろうか？

オネシモが5~7節の数多くのよいことをパウロに告げたとは考えにくい

以下のコロサイ人への手紙によると、エペラスがその報告者かもしれない。

1:7あなたがたはこの福音を、わたしたちと同じ僕である、愛するエペラスから学んだのであった。彼はあなたがたのためのキリストの忠実な奉仕者であって、1:8あなたがたが御霊によっていただいている愛を、わたしたちに知らせてくれたのである。注:「わたしたち」とはコロサイ人への手紙の差出人パウロとテモテのこと

また、「聞いている」が英語訳では現在進行形なので、ピレモンに関する良き知らせを何度も聞き、おそらく数人の人たちから聞いているかもしれない。

スライド31では愛と信仰についての多少の考察をしています。

スライド31

1:5 あなたの愛と信仰

1:5それは、主イエスに対し、また、すべての聖徒に対するあなたの愛と信仰について、聞いているからである。

ピレモンのようなクリスチャンを称賛したいときに、パウロはピレモンの愛と信仰に言及している。
ここでは愛、それから信仰の順序で並べられているが、第1コリント人への手紙13章13節では

13:13このように、いつまでも存続するものは、信仰と希望と愛と、この三つである。このうちで最も大いなるものは、愛である。

愛が信仰よりもはるかに偉大であることをパウロは確認している。

この箇所において、ギリシャ語の語法では、愛と信仰があたかも一つのもの、単一の道、一つの行い、一つの行動のように扱われている。

スライド32では、神の評価と世の中の評価とは異なることを示しています。

スライド32

1:5 あなたの愛と信仰

1:5それは、主イエスに対し、また、すべての聖徒に対するあなたの愛と信仰について、聞いているからである。

あなたの働きと実績とは言っていない。

この世の中の人々は、人の能力や性格で、その人の価値を計るしかし、神はその人の愛と信仰を見ておられる

わたしの目にはあなたは高価で尊い。わたしはあなたを愛している。(イザヤ書43章4節)

スライド33では、1章6節は神の御心に叶うとりなしの祈りの一例としてみなすことができることを示しています。

スライド33

1:6 とりなしの祈り

1:6どうか、あなたの信仰の交わりが強められて、わたしたちの間でキリストのためになされているすべての良いことが、知られて来るようになってほしい。

この箇所を欽定訳聖書を使って日本語訳すると、「キリストの中にあり、あなたの中にある、すべての良いものをよく知ることによって、あなたの信仰の分かち合いが、生きて働くものとなりますように。」

The communication of thy faith may become effectual by the acknowledging
Of every good thing which is in you in Christ Jesus.

つまり、キリストのうちに、すべての良いものがあり、そのキリストがあなたのうちにおられる。あなたが、このことをよく知ることによって、あなたの信仰が生きて働くようになりますという意味。パウロはピレモンがこのことをよく知って、さらに信仰が生きて働くことを願っている。

スライド34では、キリストへの信仰を持って救われた人が、神の働きを担っていることは、キリスト者にとっては大きな喜びであることが示されています。

スライド34

1:7 パウロが導いた人がキリスト・イエスの良き働き人だから

1:7兄弟よ。わたしは、あなたの愛によって多くの喜びと慰めとを与えられた。聖徒たちの心が、あなたによって力づけられたからである。

パウロは、ピレモンの働きを知って、喜んでいる。19節にあるように、ピレモンはパウロによって、キリストへの信仰を持った。だから、自分を通して救いに導かれた人が、愛と信仰を持って、クリスチャンたちを励ましている姿を見れば、これほど嬉しいことはほかにない。

スライド35において、ピレモンに依頼をするときに、上位にある権威を使わずに、兄弟の立場から依頼や弁護をパウロがしています。

スライド35

1:8 キリストの使徒の権威を行使せず

1:8こういうわけで、わたしは、キリストにあってあなたのなすべき事を、きわめて率直に指示してもよいと思うが、

パウロは7節で、「兄弟よ」と呼び掛けているが、ここから、兄弟愛によって、同労者として、へりくだり、オネシモに対する弁護を始めている。

パウロはイエス・キリストの使徒なので、権威を持っているが、その権威を行使することなく弁護を始めている。

スライド36では、パウロの言葉が胸を打ちます。仮に、パウロが現在生きているキリスト者に対して、同じことを願ってきたら、キリスト者は嫌だとは言えないでしょう。

スライド36

1:9 オネシモの弁護

1:9むしろ、愛のゆえにお願いする。すでに老年になり、今またキリスト・イエスの囚人となっているこのパウロが、

オネシモのことをピレモンの前で弁護している。初めに、自分が年老いた、キリスト・イエスの囚人であると言っています。このような人物からお願いされては、やはり、聞かざるを得ないであろう。

スライド37では、パウロはオネシモを「獄中で産んだわが子」と呼んでいます。その意味を説明しています。

スライド37

1:10 獄中で産んだわが子

1:10捕われの身で産んだわたしの子供オネシモについて、あなたにお願いします。

オネシモのことを「捕らわれの身で産んだわたしの子供」と呼んでいる。ここに、パウロのオネシモに対する主にある親愛の情が示されている。

パウロが、オネシモをキリストへの導いた。テモ子のこと、テトスのこと、パウロはそのように呼んだ。パウロにとって、オネシモは特別な存在である。

「捕われの身で産んだわたしの子供オネシモ」とは霊的な意味での比喩。もちろん、獄中で生んだといっても、パウロが出産したというわけではない。パウロによって救いに導かれ、新しく生まれたということ。

スライド38では、オネシモという名前の意味の説明と、神から離れていた人間が神の御前に立ち返るとどうなるかということの説明をしています。

スライド38

1:11 オネシモとは「役に立つ」

1:11彼は以前は、あなたにとって無益な者であったが、今は、あなたにも、わたしにも、有益者になった。

①「オネシモ」という名前の本来の意味は、「役に立つ」。

②前はオネシモではなかったが、今は、あなたにとっても私にとってもオネシモなのです。

③「前には役に立たない」というのは、主人から物を盗んで逃した奴隷であったということ。

④今は、キリストの働き人になってしまっています。そこで「役に立つ者」と呼んでいる。

私達人間も、神の前には役に立つ者として創造されたのですが「すべての人が迷い出て、みな、ともに無益な者となった。」(ローマ人への手紙3:12)とある通り、神から離れ、役に立たない者となってしまった。

ではなぜ「役に立つ者」となったのか？ 彼は自分の罪を悔い改め、イエス・キリストを救い主として信じたから。彼はキリストにあつて新しく生まれ変わった。「だれでもキリストにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。」(Ⅱコリント5:17)

スライド39では、彼（オネシモ）は私のところであるという等式が書かれています。

スライド39

**1:12 オネシモとは「パウロの心」
:オネシモ＝パウロの心という等式**

1:12彼をあなたのもとに送り返す。彼はわたしの心である。

オネシモはパウロの心であると述べている。つまり、パウロ自身であるようにオネシモを受け入れてほしいと願っている。

オネシモはパウロ自身の一部であるか、パウロ自身の配偶者のような存在であるかという意味で、そのように書いたかもしれない。

スライド40では、オネシモがどれだけパウロにとって有益な存在であるかを語っています。

スライド40

1:13 オネシモを手放したくはないけれど

1:13わたしは彼を身近に引きとめておいて、わたしが福音のために捕われている間、あなたに代って仕えてもらいたかったのである。

パウロはここでこのオネシモを、ピレモンのもとに送り返すと書いている。本当は自分のところにとめておき、ピレモンに代わって自分に仕えてもらいたいとも考えたが、そのようにすることはほしくないで、主人ピレモンのもとに送り返すことにした。なぜか？

14節にその理由が書かれている。

スライド41において、ピレモンがオネシモを赦して、受け入れることは、強制ではなく、自発的なものでなければいけません。ところで、当時のローマの奴隷制度において、奴隷が主人から逃げたとき、捕まえたら主人は奴隷を死刑にすることができました。奴隷は当時6千万人いたとされ、自由人よりもはるかに多かったので、奴隷の反乱を押さえるためにも、逃亡には厳しい処置が取られていました。ですから、当時の常識からすると、ピレモンがオネシモをそのまま受け入れることは、とんでもないことだったのです。けれども、パウロは今、ピレモンが奴隷を持つ主人である前に、キリストにある兄弟であり、同労者であり、キリストの愛を持っている人であることをまず初めに語って、オネシモを赦してくれることを嘆願しているのです。⁴

スライド41

1:14 強いられてではなく喜んで

1:14しかし、わたしは、あなたの承諾なしには何もしたくない。あなたが強制されて良い行いをするのではなく、自発的にすることを願っている。

聖書には良い行いとは、強いられてするものではなく、喜んですることであることが書かれている。従って、この手紙のこの箇所を読むと、喜んで自発的に行うことが、神様が喜ばれることを再認識するはずである。

スライド42では、様々なことが人間の人生の中で起こっても、ローマ人への手紙8章28節「神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています。」という御言葉を思い出させられますね。

スライド42

1:15 人には理解しがたいことであっても

1:15彼がしばらくの間あなたから離れていたのは、あなたが彼をいつまでも留めておくためであったかも知れない。

オネシモはピレモンのところから逃亡した。これは悪いことであり、オネシモはやってはいけないことだった。しかし、神様はこのようなことをも用いられて、ご自分の栄光のための出来事としてくださった。オネシモがピレモンのところから離れたことにより、彼がローマにまでやって来て、そしてローマでパウロと出会い、永遠のいのちを得ることができた。ピレモンからオネシモが離れてしまったが、もうこれからは、永久に離れることはない。キリストにあって一つのからだに属しているからである。

人には理解しがたいが、神様はそれをよしとされる1つの例：

「あなたがたは、私に悪を計りましたが、神はそれを、良いことのための計らいとなさいました。それはきょうのようにして、多くの人々を生かしておくためでした。(創世記50:20)」

スライド43では、全てのキリスト者は神の御前では、全てが兄弟姉妹の関係であることを再確認させられます。キリスト者の兄弟という真理を知った信仰者の間では奴隷というものは決して存在することがありません。

スライド43

1:16 福音と真理

1:16しかも、もはや奴隷としてではなく、奴隷以上のもの、愛する兄弟としてである。とりわけ、わたしにとってそうであるが、ましてあなたにとっては、肉においても、主にあって、それ以上であらう。

ピレモンとオネシモは、主人と奴隷のような関係ではなく、キリストにあって一つであるということ。主イエス・キリストの元では、皆、兄弟姉妹で、平等に同じところにいる。

ガラテヤ人への手紙3:28もはや、ユダヤ人もギリシヤ人もなく、奴隷も自由人もなく、男も女もない。あなたがたは皆、キリスト・イエスにあって一つだからである。

スライド44では、主にある兄弟であるオネシモを主にある兄弟であるパウロと同様に扱って欲しいと懇願しています。

スライド44

1:17 パウロのようにオネシモを受け入れてほしい

1:17そこで、もしわたしをあなたの信仰の友とってくれるなら、わたし同様に彼を受け入れてほしい。

スライド45において、パウロは、言葉上でのとりなしのみならず、実際に弁償することを申し出しています。

スライド45

1:18 実際的なとりなし(弁償)

1:18もし、彼があなたに何か不都合なことをしたか、あるいは、何か負債があれば、それをわたしの借りにしておいてほしい。

オネシモはピレモンに不都合なことをしたのかもしれない。例えば窃盗。その損害があるなら、パウロが弁償するという。危害を与えていたら、完全な解決のためには、犠牲がともなう。パウロのこの行為は、以下のようにイエス・キリストがされたことである。

第1ヨハネの手紙2:1わたしの子たちよ。これらのことを書きおくるのは、あなたがたが罪を犯さないようになるためである。もし、罪を犯す者があれば、父のみもとには、わたしたちのために助け主、すなわち、義なるイエス・キリストがおられる。2:2彼は、わたしたちの罪のための、あがないの供え物である。ただ、わたしたちの罪のためばかりではなく、全世界の罪のためである。

スライド46におけるパウロの説得はとても巧みがあります。

スライド46

1:19 損害賠償の手続きとパウロの伝道の結果

1:19このパウロが手ずからしるす、わたしがそれを返済する。この際、あなたが、あなた自身をわたしに負っていることについては、何も言うまい。

パウロはこの手紙で、損害賠償の手続きをしようとしている。自筆で書いている、とのこと。同時に、パウロは、ピレモンが今のようになれたのも、私による、と言う。つまり、ピレモンもパウロに借りがあるけれど、そのことはここでは触れないとさりげなく述べている。

あなたが、あなた自身をわたしに負っていること。ピレモンはパウロに導かれて、改宗した(クリスチャンになった)ことをはっきりといわず、暗に伝えている。

この改宗がパウロによって促されたことを示す聖書箇所：使徒の働き19章1-10節 19:10それが二年間も続いたので、アジアに住んでいる者は、ユダヤ人もギリシヤ人も皆、主の言を聞いた。

スライド47では、他の聖徒たちがピレモンによって元気づけられているように、私も元気づけてください、と言っています。ピレモンがオネシモを受け入れることは、パウロの心をカづけます。とても機知に富んだ説得をパウロは展開しています。

スライド47

1:20 機知に富んだ説得

1:20兄弟よ。わたしはあなたから、主にあって何か益を得たいものである。わたしの心を、主にあってカづけてもらいたい。

他の聖徒たちがピレモンによって元気づけられている。オネシモを受け入れてくれたら、それによってパウロも元気になれると述べている。

スライド48では、パウロがとりなしの祈りをしてくれるように願っています。

スライド48

1:21-22 オネシモの受け入れの願いの後で、具体的な願い

1:21わたしはあなたの従順を堅く信じて、この手紙を書く。あなたは、確かにわたしが言う以上のことをしてくれるだろう。

1:22ついでにお願いするが、わたしのために宿を用意しておいてほしい。あなたがたの祈りによって、あなたがたの所に行かせてもらえるように望んでいるのだから。

パウロは今、牢の中にいても、出ることができると確信していたようである。でも「あなた方の祈りによって」と、ピレモンにもとりなしの祈りをしてくれるように願っている。祈りがとても重要であることをパウロは知っているからである。

スライド49では、挨拶の言葉が書かれていますが、この挨拶の内容から、パウロがとりなしの祈りを間接的に求めていることが読み取れます。

スライド49

1:23 間接的にとりなしの祈りを願う

1:23キリスト・イエスにあって、わたしと共に捕われの身になっているエパfrasから、あなたによるしく。

エパfrasは、コロサイにおいて、牧会的な働きをしていた人。彼もまた、パウロと同じように、キリストのあかしのゆえに捕らえられ、囚人になっている。このことがこの手紙に書かれているから、手紙の受取人ピレモンは、エパfrasのためにもとりなしの祈りをするであろうことが期待される。

スライド50でも、挨拶の言葉から、パウロの同労者たちのために、間接的にとりなしの祈りを求めていることが読み取れます。この文章は手紙における形式的な挨拶ではないことを知しましょう。

スライド50

1:24 パウロの同労者たち

1:24わたしの同労者たち、マルコ、アリストアルコ、デマス、ルカからも、よろしく。

マルコとは、マルコの福音書を書いた人。かつてパウロと対立があったが、パウロはマルコを赦し、同労者になった。アリストアルコはパウロと苦しみを共にした人。デマスは、同労者であったが、この世を愛して、パウロから去った。ルカとは、ルカによる福音書と使徒の働きを書いた医者。ここに彼らの名前が列記されているのは、間接的に彼らのために執り成しの祈りを頼んでいると読み取ることができる。

スライド51では、手紙の結びの部分の説明をしています。イエス・キリストの恵みとは一体何でしょうか。恵みは数えきれないほど、人間に与えられています。その中で最大の恵みとは、イエス・キリストが人々の罪の贖いをするために、十字架の上で死んでくださり、葬られて3日後によみがえり、罪の報酬である死の呪いを打ち砕いてくださったこと。そして、すべての罪を悔い改め、イエス・キリストを救い主として受け入れる者には神の恵みで、永遠の命が与えられるということです。

スライド51

1:25 人はイエス・キリストの恵みで生きる

1:25主イエス・キリストの恵みが、あなたがたの霊と共にあるように。

パウロのいつもの結びの言葉。「主イエス・キリストの恵み」が私たちのすべてを動かしてくれます。つまり、人が地上で生きて行くことができるのは、主イエス・キリストの恵みによるとのこと。

スライド53

この手紙は何をたとえているか？



宗教改革者マルティン・ルターは、パウロはこの手紙でオネシモに対してキリストの役割を演じていると言いました。オネシモはピレモンからの怒り

スライド52では、のちのオネシモがどうなったかの話をお話しています。ただし、これらの説はあくまでもある種の説であり、100%事実かどうかは分かりませんから、あくまでも参考程度のお話です。
スライド52

スライド54で、何がどのように例えられているかを表にしてあります。パウロはイエス・キリストのような役割を果たしています。ピレモンは父なる神のような立場です。罪人に対する裁きと怒りがあります。しかし、イエス・キリストを通しての救い、とりなしゆえに、かつてはピレモンの怒りの対象だったオネシモは、ピレモン（父なる神の立場）とは今や、和解している状態です。つまり、人類と父なる神は敵対関係でありましたが、イエス・キリストの十字架の業ゆえに、人類は父なる神と和解することができることをピレモンへの手紙は例えています。聖書にはこうした例えとして解釈できる箇所がいくつかあります。
スライド54

この手紙がピレモンに手渡されたから、どうなったか？(推定)

- 聖書には帰結が書かれていない。しかしながら、ある伝承によると、ピレモンはオネシモを受け入れ、パウロの暗示を悟り、奴隷を自由にしたという。
- ピレモンの心のうちなるキリストが、ピレモンにオネシモを一人のキリスト者兄弟と認めさせ、彼を放免させたという説。この手紙の目的は達成されたのオネシモはオネシモをキリストにある兄弟として受け入れ、オネシモは忠実な僕に再びなり、断絶は癒されたと思いたい
- この50年余り後のある手紙にエペソの監督オネシモという名が出てくる。もし、彼がこの手紙と同一人物かどうかは不明。
- オネシモが後に、ペレヤの教会の監督になったという伝承もある。

参考: Halley, Henry H. HALLEY'S BIBLE HANDBOOK

ピレモンへの手紙は何をたとえているか？

聖書に登場する方々	手紙の登場人物	役割
イエス・キリスト	パウロ	救い、とりなし、父なる神に導く
父なる神	ピレモン	罪人に対する裁きと怒り
人類(罪人)	かつてのオネシモ	逃亡 おそらく窃盗
クリスチャン	その後のオネシモ	役立つ僕

スライド53⁵はマルティン・ルターの見解についてです。聖書の文脈はたとえで書かれていると認識できる箇所があります。

それでは、ピレモンへの手紙から、どんな教訓が学べるか、考察してみましょう。

スライド 55

ピレモンへの手紙の内容 を日々の生活に適用する

スライド56では、ピレモンへの手紙の内容から、キリストによる救いは赦すことであることが読み取れます。平和な状態が始まるためには、イエス・キリストによる救いによって、父なる神と人の関係が修復されることから始まります。ピレモンとオネシモの間の人間関係の修復も、彼らがキリストを主とした兄弟関係にあることから始まっていると言っても過言ではありません。

スライド56

キリストによる救いとは赦すこと

- ・キリストによる救いによって、加害者と被害者、恩知らずと裏切られた人を、真の和解に導く。平和は、赦しがたい人を赦すことから起こる。

スライド57では、人の価値とは何であるかが論じられています。キリスト者は、主イエス・キリストの御前では、兄弟姉妹、つまり神の家族であります。彼らの間では利害関係のつながりではなく、家族としてのつながりがあります。

スライド57

人の価値を何で測るか？

- ・奴隷は主人にとって役に立たなければならない
- ・主人に害をなす奴隷は必要とされない。
 - ・役に立つとか、立たないとか、使えるとか使えないといった基準で判断しがち
- ・しかし、家族の1員であるということがあれば、そのような基準は適用できない。
 - ・パウロはオネシモを受け入れてほしいと頼んだが、奴隷としてふさわしいから受け入れてほしいと頼んだのではない。クリスチャンの兄弟として受け入れてほしい。
- ・全てのクリスチャンは神の元で、兄弟姉妹であり、神の家族である。
 - ・家族である限り、そのつながりは消えることがない。

スライド58では、人間関係はどのようにあるべきかの考察です。

スライド58

人間関係において

- ・雇用者も、政治家も、企業役員も、親も、クリスチャンの職員、同僚、そして家族にキリストの体の一部として関わるという聖書の教えから習う事ができる。
- ・クリスチャン達は使用人達を自分の目標を達成するための道具と見なしたりせず、恵みをもって関わるべきキリストにある兄弟姉妹として見なす必要がある。
- ・さらに、クリスチャンリーダー達は彼らの下で働く一人一人がクリスチャンでもそうでなくても、彼らに対して責任を持っていて、やがて神の前にその行動を説明する必要がある事を覚えておく必要がある。

コロサイ人への手紙4:1 主人たる者よ、僕を正しく公平に扱いなさい。あなたがたにも主が天にいますことが、わかっているのだから。

スライド59では、エペソ人への手紙による主従関係の説明が示されます。人の行いは良きものであっても、悪しきものであっても、最終的に神による審判を受けます。

スライド59

エペソ人への手紙による主人と奴隷

- 6:5 僕たる者よ。キリストに従うように、恐れおののきつつ、真心をこめて、肉による主人に従いなさい。
- 6:6 人にへつらおうとして目先だけの勤めをするのではなく、キリストの僕として心から神の御旨を行い、
- 6:7 人ではなく主に仕えるように、快く仕えなさい。
6:8 あなたがたが知っているとおおり、だれでも良いことを行えば、僕であれ、自由人であれ、それに相当する報いを、それぞれ主から受けるであろう。
- 6:9 主人たる者よ。僕たちに対して、同様にしなさい。おどすことを、してはならない。あなたがたが知っているとおおり、彼らとあなたがたの主は天にいますのであり、かつ人をかたより見ることをなさらないのである。

スライド60では、ストウ夫人は、ピレモンの手紙を読んだことが、『アンクル・トムの小屋』を書きかけになったのではないかということを示しています⁶。

スライド60



スライド61では、『アンクル・トムの小屋』の本の裏表紙において、南北戦争を引き起こしたのはこの本であることを示唆していることを示しています。

スライド61

アンクルトムの小屋の裏表紙の記述

この忘れることのできない小説はトムの物語を告げている。トムは主人を困惑させるおそれがあるので、奴隷の境遇から逃げないことを選択した敬虔なクリスチャンの奴隷である。しかしながら、彼はすぐに奴隷商人に売られて、ミンシッピーに送り込まれる。そして、そこで彼は残酷な扱いに耐えなければならぬ。これは、忠誠と高潔な行動の代償と奴隷制度の極度の虐待の力強い物語である。最初に出版された時、北部の反奴隷制感情を結束させるのに役立った。そして、一つの国を南北戦争まで動かすことを促した書籍として現代でも残っている。

アブラハム・リンカーンが作者のストウ夫人と会見した際、「あなたのような小さな方が、この大きな戦争を引き起こしたのですね」という伝説に残るほど有名なコメントは、深刻に疑問視されてきた。しかし、この作品は致えきれないほどの情熱や偏見を生み出したことを否定できない。もしこの作品が人々の情熱を起こさなかったなら、燃え差しを燃え上がらせた。

参考文献
Charles Edward Stowe and Lyman Beecher Stowe, *Harriet Beecher Stowe: The Story of Her Life*. Boston: Houghton Mifflin, 1911. pp. 202-3.

https://openlibrary.org/works/OL152228W/Uncle_Tom's_Cabin

ピレモンの手紙は、ストウ夫人に影響を与え、その著作『アンクル・トムの小屋』が誕生し、その本が最終的にリンカーンに影響を与えたという説がありますが、真偽のほどは定かではありません。スライド62に参考の文献名を紹介しておきます。

スライド62



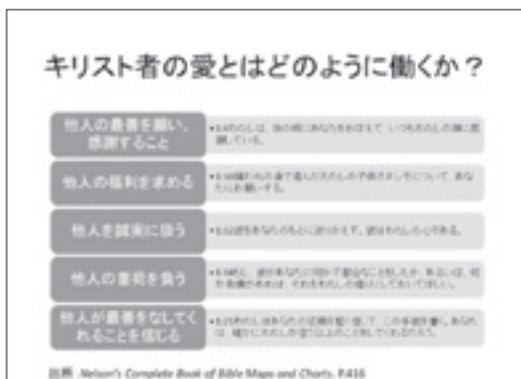
リンカーンの奴隷解放宣言

- リンカーンは『アンクル・トムの小屋』を読み、それがきっかけの一つになって奴隷解放宣言をしたという説があるが、議論がある。
- 例えば、以下の記事：

Lincoln and The Key to Uncle Tom's Cabin
By Katherine Kane, Executive Director, Harriet Beecher Stowe Center
As featured in Connecticut Explored, Winter 2012/2013 issue

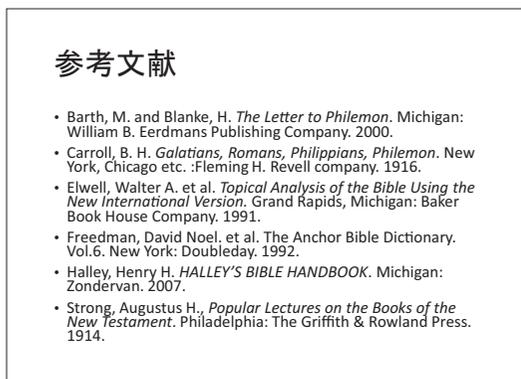
スライド63では、ピレモンへの手紙から読み取ることができる愛の働きを示しています。

スライド63



スライド64は参考文献のリストです。

スライド64



スライド65



- かつて、SUDAchi 講座で、なぜ口語訳聖書を使っているのかという質問がありました。『ピレモンへの手紙』全体をここで引用しています。『口語 新約聖書』（日本聖書協会発行）初版（1954年版）は、日本の著作権保護期間（50年）満了しておりますから、著作権の問題なく引用できるということが口語訳聖書をここで使用した理由です。
- ここで扱う奴隷とは、アダムの子孫である人は例外なく、罪の故に罪の奴隷状態である（ヨハネ 8:34, ローマ 6:16, 17, 6:20）事に言及するのではなく、聖書に記述された奴隷です。
- 『彼と共に送る』 彼とはテキコのことです。
- http://www.logos-ministries.org/new_b/phm.html (2017年9月25日アクセス)
- マルチン・ルターの画像は次の URL から引用しています。画像はパブリックドメインに分類されています。[https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%9E%E3%83%AB%E3%83%86%E3%82%A3%E3%83%B3%E3%83%BB%E3%83%AB%E3%82%BF%E3%83%BC#/media/File:Lucas_Cranach_\(I\)_workshop_-_Martin_Luther_\(Uffizi\).jpg](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%9E%E3%83%AB%E3%83%86%E3%82%A3%E3%83%B3%E3%83%BB%E3%83%AB%E3%82%BF%E3%83%BC#/media/File:Lucas_Cranach_(I)_workshop_-_Martin_Luther_(Uffizi).jpg) (2017年9月17日アクセス)
- 画像は次の URL から引用しました。https://openlibrary.org/books/OL24832969M/Uncle_Tom's_cabin (2017年9月24日アクセス)